第７回「比べて読もう新聞コンクール」　北区議会議長賞　受賞作品

テーマ

はたらく楽しさ

Ⅰ　このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

ぼくが夏休みに入ってもお母さんとお父さんはいつもとかわらずはたらきに行っています。「つかれた！」と言いながらも、二人は自分たちのお仕事がどんなお仕事なのかを、楽しそうに話してくれます。二人の楽しそうなすがたを見て、はたらくことはお金以外の何かよいものを手に入れられるのかなと思い、このテーマをえらびました。

Ⅱ　比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について比べるには、食べるためにはたらいている人もいますが、学校で学んでからはたらくほうがよりお金をかせぐことができるので、子どもの教育が守られてきています。お金のためではなくはたらく子どももいますが、それは仕事を通して、せきにん、時間のかん理などゆうぎなりけんができるからです。

②について大学生が、夏休みに会社ではたらくインターンシップという思い度はおきゅうりょうが出ますが、お金のためではなく、はたらくことはどういうことなのかをたいけんするためです。さたぎじゅつを持ったゆうしゅうな学生が来てくれるように、おきゅうりょうを上げる会社もふえています。

①と②を比べて分かったこと自分で調べてみたいこと。①では子どもの教育が守られていること②では学生が学校で学んだことを使ってはたらくことが重いであり、学校で学ぶことの大切さが分かります。まだはたらくことは多くのことを学べて、自分がせい長できるのだと思いました。

Ⅲ　テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

はたらくことで、「お金」と「学ぶこと」のりょうほうを多に入れられることがわかりました。お母さんとお父さんが、「つかれた」と言ってもたのしそうに、仕事の話をするのは、仕事でむずかしいことができるようになったことや、色いろな人と出会えたことなどうれしい気持ちがあるからだと分かりました。ぼくはキッザニアでたくさんのお仕事体けんをした時、体はとてもつかれたけれど、心はとてもワクワクして、「まだはたらきたい」と思いました。それは、自分のゆめの仕事をたいけんできたからです。自分のすきなやりたいことを仕事にしながらお金をかせぐことは、幸せなことなのだと分かりました。ぼくもゆめをかなえ、すきなことを仕事にできるよう学校のべんきょうをもっとがんばろうと思います。

発行日
8月23日
発行者(氏名)

稲田小学校
第３学年児童